

合唱コンクール

10月は芸術の秋、実りの秋です。多くの学校では文化祭や学習発表会が開かれます。野田中学校の文化祭は、「玉梨音祭（おりおんさい）」と言います。コロナの影響がなければ、体育館のステージで発表があったり、廊下には作品が掲示されたりするところでした。

残念ながら、なかなかコロナの状況が収束（しゅうそく）に向かいません。野田中学校では、やむなく「合唱コンクール」のみの玉梨音祭とすることにしました。この時期には、どの中学校でも同じように合唱コンクールを実施しています。最優秀賞など最高の栄誉（えいよ）に輝いた学級は、11月11日（金）ふくしん夢の音楽堂（福島市音楽堂）で開催される「福島市学校総合文化祭音楽発表会」の場で、学校を代表して、その歌声を披露（ひろう）することになります。

先週あたりから昼休みや放課後には、各教室から歌声が聞こえてくるようになりました。校舎に歌声が響きわたる学校はいいものです。放課後には、幸せな気分浸（ひた）ることができます。

昔の話ですが、学級担任をしていたときには、毎年、合唱コンクールをめぐってクラスにドラマが展開されていました。女子生徒はきれいなハーモニーを奏（かな）でています。指揮者も伴奏者も一生懸命です。にもかかわらず、男子は満足に声を出しません。この状態がコンクール前日まで続きます。

当日を迎えました。体育館のステージに学級の生徒が並びます。指揮者の合図とともに、ピアノ伴奏が始まります。いよいよ出だしです。男子が、それまで聞いたことがないような声を出しています。鳥肌が立ちます。女子のきれいな歌声と男子にしか出せない魅力的な歌声とが重なり合って見事な合唱です。

合唱が終わり退場すると、女子生徒がみんな泣いています。その近くで、男子は満足したような表情をしています。心と心が通い合った瞬間です。

音楽には力があります。合唱には、中学生を、そして学級を成長させる力があります。合唱でなければ味わえないものがあります。山あり谷ありのドラマが展開されたとしても、学級のみinnで取り組んだ合唱は、中学時代の大事な思い出となります。

だからこそ、どの中学校でも合唱コンクールを実施しているのでしょう。合唱の価値や教育的効果を認めているのでしょう。学校生活にはドラマが必要です。そのドラマを通して人は成長していきます。

合唱コンクールは、皆さんが主役のドラマです。10月22日（土）体育館で学年ごとに行われる合唱は、どの学級も、どの生徒も主役となる本番の舞台です。